佐用町人権啓発入賞作品（作文の部）

昔の沖縄

上津中学校　３年　　廣瀬　翔伍

皆さんは、戦争をしてみたいですか？

この短い十六文字を聞くだけで、たくさんの人の思い、実話などを想像することができると思います。僕は今年の夏、「島守の塔」という映画を見ました。「島守の塔」は、第二次世界大戦末期の沖縄を舞台に、県民の命を守ろうと奔走した二人の官僚の姿を描いた作品です。僕は授業で沖縄戦をそこまで詳しく学習できていなかったので、勉強になりました。実写映画なので、とてもリアルで息が詰まるシーンが多く登場します。僕は純粋に、見ていて怖かったです

沖縄戦は、太平洋戦争の末期（一九四五年）に起きた、日本軍とアメリカ軍による戦いです。主に沖縄本島で行われ、多くの住民が戦闘に巻き込まれ、多くの犠牲者を生んだ戦いです。沖縄には「ガマ」と呼ばれる自然にできた洞窟や壕があり、沖縄戦の際には、住民たちの避難所として重要な役割を果たしました。その「ガマ」に逃げ込んでも、火炎放射器でアメリカ軍にやられてしまう、といったことも多くあったのが沖縄戦です。

あるシーンで、県庁職員が玉砕の覚悟を持ち、自決しようとしたり、「（沖縄県知事の）そばにいさせてほしい。守らせてほしい」と言ったりするシーンがありました。そんな職員に対して、沖縄県の知事がここは危ないから帰りなさいという意味を込めて、強い口調で「帰れ！」「帰って、帰って、家に戻りなさい。」と叫びます。この言葉に僕は感動し、心にグッとくるものがありました。

そしてもう一つ、僕の心に響いた言葉がありました。それは、「命どぅ宝」、つまり「命こそ宝」という言葉です。「命どぅ宝」という言葉は、戦争という悲劇を通して生まれた命の重さと平和への願いを象徴しています。命が何よりも大切であるという教えは、僕たちの生活の中でも忘れてはならないものだと思います。

日本は戦争が終わって八十年以上が経過しています。つまり、今の八十歳の人でも戦争を経験していない人もいます。だからこそ、僕が見たように映画で伝えることができると思うし、それを小さな子にも伝えていく必要があると思います。ですが、戦争を経験した語り部の減少などによって伝えていくことが困難になっているのが日本の現状です。日本国憲法には「平和主義」という言葉がありますが、日本は原子爆弾を落とされた世界で唯一の国として「平和主義」を伝えていく必要があると思います。

今でも、ロシアとウクライナは戦争を続けています。毎日たくさんの場所が襲撃され、たくさんの尊い命がなくなっています。「土地を広げるための戦争」でも、度が過ぎると僕は思います。早く終戦を迎えてほしいです。

最初にした質問、「皆さんは、戦争をしてみたいですか？」。今、皆さんはどう答えますか？この答えに正解はありません。ただ、戦争はひどい、つらい、悲しいということを分かってもらいたいです。「島守の塔」を見て、僕は当時の沖縄戦の悲惨さや、命の尊さについて深く考えることができました。皆さんも、過去の歴史を振り返り、命の尊さについて考えてみてください。